



Weekly Market Report

Jul 5, 2021

FX, JPY Interest Rate, Topics

1. 為替相場概況

堅調な米経済指標を受けドル円は上昇も、雇用統計を通過して戻す展開

USD/JPY (1週間の値動き)



コメント

先週のドル円相場は週末の雇用統計にかけて上昇する展開。他通貨に対してもドルは週を通じて相対的に強めに推移した。週初、ドル円相場は月末以外の目立った材料が無い中で一時111円直前まで上昇したものの、その後米長期金利低下につられて円高に進行し、週央にかけて110円台半ばでもみ合う展開。水曜日の米ADP雇用者数が予想以上に改善したことでドル円相場は111円台半ばまで円安に進行。木曜日の米新規失業保険申請件数の改善を受け、再度上昇に転じた後は111.60円前後で推移した。金曜日には注目の雇用統計が発表されたが、非農業部門雇用者数が予想対比上振れて一時円安に反応したものの、その後は米長期金利低下につられて円高に進行し、結果111.10円程度で越過している。

今週のドル円相場は、引き続き米経済回復期待と米金利動向に注意したい。週明けは米国休日となるが、その後は重要な経済指標が目白押し。特に注目すべきは火曜日の豪政策金利発表と米ISM非製造業指数だが、加えて水曜日の米6月FOMC議事録の内容にも注意したい。(市場営業部/正村)

今週の経済指標 (予定)

| 日付 | イベント | 予想 |
|--------|--------------------|-------|
| 7/5(月) | (米国) 休日 (祝日) | - |
| 7/6(火) | (豪) 政策金利発表 | 0.10% |
| 7/6(火) | (米国) ISM非製造業指数 | 63.8 |
| 7/7(水) | (米国) FOMC議事録 (6月分) | - |
| 7/8(木) | (米国) 新規失業保険申請件数 | 35万人 |

USD/JPY (5年間)



今週のレンジ予想 (USD/JPY)

| 予想者 | 今週のレンジ | 予想のポイント |
|------|-----------------|---|
| 福永純一 | 110.40 - 112.40 | 先週末の米雇用統計の結果を受け、テーパリング期待によるドル高は一旦一服。今週は材料難で上値重い展開を予想。 |
| 三原大希 | 110.00 - 113.30 | 米休場明けのISM非製造業景気指数、FOMC議事録発表によるテーパリング期待再燃のドル高に警戒が必要。 |

2. 円金利相場概況

雇用統計を受けた米金利の低下が円金利の下押し圧力となる見通し。

10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）

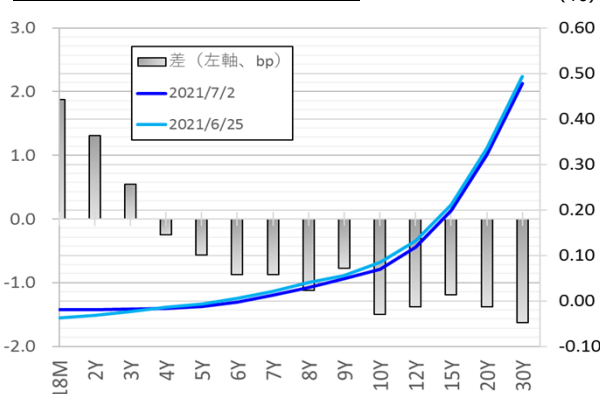


(出所) Bloomberg

コメント

先週の10年国債金利は0.037-0.067%のレンジ推移となり、海外金利市場での雇用統計待ちの様子見姿勢が強い中、堅調な入札結果を受けて若干の金利低下。週前半は米市場での雇用統計を控えて様子見姿勢が強まり、小動き。6月28日は前週末の海外市場で米金利が上昇した流れを受けて、反発して始まったものの、国内材料に乏しく値動きは限定的。6月29日は日銀が7月の国債買い入れ減額を発表したものの、2年債入札の堅調な結果を受け前日比横ばいで終了。週後半は10年入札の堅調な結果を受けて、長期から超長期ゾーンを中心に金利が低下。7月1日の10年国債の入札は、応札倍率が前回から大きく上昇する等、総じて強めの結果。7月2日は雇用統計前の様子見ムードのなか長期中心に金利が低下した。今週は6日に30年債入札、8日に5年債入札が予定されている。米国の雇用統計後の米長期金利は一旦低下の反応が見られたことが、円金利の下押し材料となるだろう。(市場営業部/小澤)

金利スワップ変化（1週間）



5年円金利スワップ推移（5年間）



今週のレンジ予想（10年国債利回り）

| 予想者 | 今週のレンジ | 予想のポイント |
|--------|---------------|---|
| 正村光太郎 | 0.03% - 0.06% | 先週末に米雇用統計を通過したが、米休場明けの火曜米ISM後の米金利動向に注意。6日の入札30年は無難に通過か。 |
| 小野口裕美子 | 0.03% - 0.05% | 昨今の国内金利は米金利上昇への相関が薄れていること、またコロナ再拡大懸念によるリスクオフ等金利上昇期待は望み薄か。 |

3. 今週のトピックス

2021年上半期の主要通貨対ドル騰落率

米国FRBの金融政策正常化に向けた動きがドルの買い戻しを後押し

<2021年上半期の主要通貨対ドル騰落率>

2021年の上半期が終了したが、この期間における主要通貨の対ドル騰落率はカナダドル+2.7%、英ポンド+1.2%、豪ドル-2.5%、ユーロ-3.0%、円-7.0%となった【図表1】。結果として、カナダドルが最もアウトパフォームしているが、原油価格の上昇に加えて先進国でいち早くテーパリングを実施したことがカナダドル買いの背景となっている。一方、円については新型コロナワクチン接種の遅れや日銀の金融緩和がかなり長期化する見込みであることから主要国の中で最もアンダーパフォームした通貨となった。

ドルインデックスについては、4月以降のドル売り相場の中で5/25に一時89.54の安値を付ける場面もあったが、6月の米国FOMCにおいてドットチャートの2023年末政策金利見通しが2回の利上げを織り込むなどタカ派な内容が示されたことでドルは大きく買い戻され、ドルインデックスも92ポイント台まで上昇している。チャートのには一目均衡表の雲の上限となる91.49が当面のサポートラインとなってきそうだ【図表2】。

<シカゴIMM投機筋ポジション>

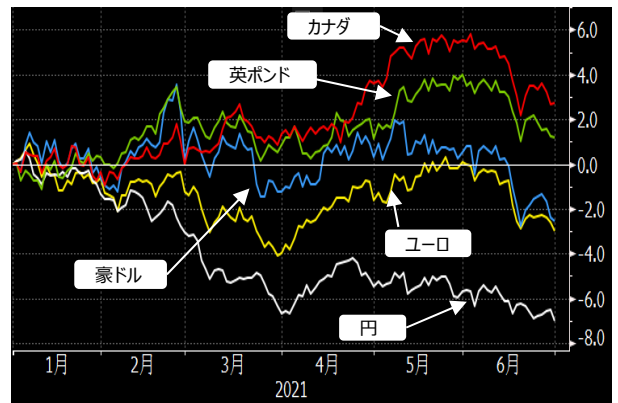
シカゴIMMの投機筋ポジションでも、ドル売りの巻き戻しが進んでいる【図表3】。ユーロについては、EU復興基金の運営が順調に進んでいるため外貨準備としてのユーロが再評価されていることや、ロシアのソブリンファンドがドルの保有をゼロにして今後ユーロや人民元にシフトさせる方針を表明したことから、ユーロのロングポジションはいまだ高水準を維持している。円については、3月にネットショートに転じて以来、ほとんど買い戻しの入らない状況となっているが、投機筋によるここからの円ショートポジション拡大余地はそれほど大きくないとみられる。

<2021年下半期の為替相場見通し>

2021年下半期の為替相場についてもタカ派スタンスに転じた米国FRBの金融政策が最大のテーマとなってくるが、今後数年以内の金利上げ観測から米国2年金利は上昇基調となっており、ドル相場の後押し要因となりそうだ。また、世界的なバントアップ需要の高まりで労働力や原材料不足は継続するとみられ、カナダドルなどの資源国通貨についても堅調な推移が見込まれる。ただし、米国の金融政策正常化の動きは株式市場にとってネガティブ材料となるため、リスクオフが強まる局面では円やスイスフランにも買い戻しが入る可能性が高く、ドル円相場の大きな上抜けは難しいとみられる。昨年の高値に近い112円がひとつの節目となりそうだ。

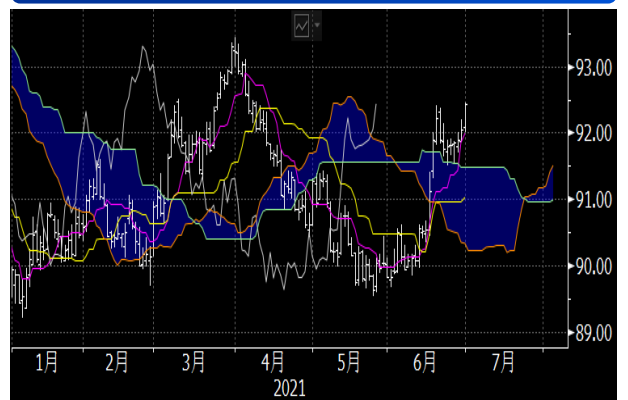
また、下半期の政治材料としては、9月にドイツで行われる議会選挙とメルケル氏退任後の新首相の選出、日本では9月の自民党総裁選、10月の衆議院任期満了が挙げられる。現時点ではオプション市場でボラティリティ上のリスクプレミアムはついていないが、政局の行方については今後も注視しておく必要がある。(チーフ・マーケット・ストラテジスト/諸我 晃)

【図表1】 上半期の主要通貨対ドル騰落率(%)



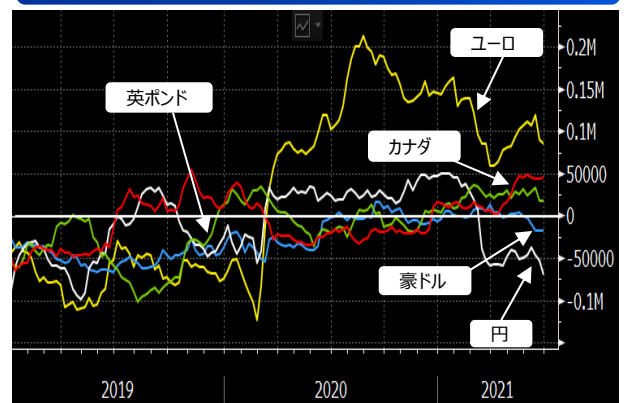
(出所: Bloomberg)

【図表2】 ドルインデックスの推移



(出所: Bloomberg)

【図表3】 シカゴIMM投機筋ネットポジション(枚)



(出所: Bloomberg)

ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会